

平成26年3月27日 No.188

所長 森津 陽太郎

守山市勝部三丁目9番1号 (守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター3・4階)

E-mail kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp TEL 077-583-4217 Fax 077-583-4237

H P http://www2.city.moriyama.lg.jp/moriyama-kyoikukenkyl/



## 教育研究発表大会 教育講演から

聖泉大学人間学部教授

臨床心理士 高橋 啓子

## 子どもの悩みと大人の思い

「子どもの悩みを理解し、相談したい大人になるために」どんなことがポイントになっているのだろう。自己愛という必要不可欠な衣をまとう子どもたちは、理想自己と現実との間で傷つきやすさと個の世界を育てている。そう簡単には理解されたくはないのかもしれない。

「あなたのことは全て理解している」と言う大人は、それを糧にコントロールしようとする心の中に入ってくるのだから。理解したがる大人と、都合のいいところを分かっている子どもとの攻防の過程こそが大切なものかもしれない。

○言葉だけに頼らない

悩みを理解したい一心から、その子の言葉の名残を拾い集め推察を試みることは無駄ではない。そこで、こうなの?どうなの?と質問を繰り返してしまうのもやむを得ないが、そもそも言語化できるということは、本人がそのことを自覚していて、大人の感覚にずっと入るよう表現できることが前提になってしまう。多くのカウンセリングのプロセスには、本人が自覚し得ない心のひだに、協同作業による気づきと確認がある。どこかで「なんで学校行けないの?」と聞けば、理由を教えてくださいそうな期待があるのではないだろうか。「明日から学校に行くことにした」と夜は爽やかに言いつつ朝は起きようとしなければ、「心は行動の近くに見つかる」。行動から心を見ていくには、「そもそもこの行動はどうして?」と考えることになる。そこには「良い・悪い」の判断はあと回しである。現実を受け入れることから関係は始まるのであって、一般論や表面的な正論は介在しにくい。

○単一正解ではない選択肢のある歩み方

オリンピックの報道の中で「伝説」と言われた選手が、過去自分が外された競技の中で仲間がメダルを達成しそうになった時、思わず心の中で最後の選手に「転べ」と叫んだという話があった。メダル獲得に大喜びする人々の間を口惜しくて泣きながら帰ったと語った。「自分のことのように嬉しかったから泣いた」と繕わなかった。トラウマを羽根に変え得た人間だから言える真実の吐露である。大人が子どもに対するとき、建前の大人になり理解していないのに理解しているふりをしてしまう。子どもはそういう大人に「相談しても仕方ない」「返ってくる言葉は分かっているから」と言う。親や先生ではない地域の大人が、自分なりの人生哲学や体験を聞かせる機会を、新鮮で画一的な規範に捕われない魅力がある。子どもたちから「相談したい」と選ばれたなら、正解を提示しようなどと張り切らず、協同謀議を始めたい。

教育研究発表大会日程

- ・開会行事
- ・中学生海外研修報告
- ・学力学習状況調査の考察
- ・教育研究発表
- ・教育に関する調査研究
- ・指導力向上に関する研究
- ・教育講演
- ・子どもの悩みと大人の思い
- ・開会行事

(H26.2.19(水)市民ホール集会室)



海外派遣を終えて  
団員からのひとこと

10月27日(日)	中部国際空港からデトロイトへ
10月27日(日)	エイドリアンへ LISDで歓迎会
10月28日(月)	エイドリアン市長挨拶、市役所など見学
10月29日(火)	スタブニッツ環境教育センターなど見学
10月30日(水)	レナウイ歴史博物館など見学
10月31日(木)	中学校訪問 ハロウィン体験
11月1日(金)	文化交流会 テカムシ高校など見学
11月2日(土)	ホストファミリーとの別れ ワシントン DC へ
11月3日(日)	アメリカ自然史博物館、航空宇宙博物館など見学
11月4日(月)	ワシントン DC から中部国際空港へ
11月5日(火)	守山市役所ロビー出迎式

- ・さまざまなことを学び感じました。多くの体験を通して一回りも二回りも成長しました。
- ・アメリカの文化特にハロウィンなどに触れ、日本の文化の違いを感じ学ぶことができました。
- ・現地の方の温かい心に触れることができました。5月にホストが来るのでおもてなしをしたいと思います。
- ・挑戦できてよかったと思います。体験して学んだことをこれからの生活に生かしたいと思います。
- ・多くの人と触れあい、学びました。自分の目で見ないとわからないことがあったと思います。
- ・アメリカの文化を学ぶだけでなく、折り紙を通して日本の文化を伝えることができました。
- ・たくさんの人と交流し、貴重な体験をすることができました。
- ・アメリカの人はやさしくコミュニケーション能力が高いと思いました。私も挑戦したいと思います。



教育に関する調査研究から

幼児教育と小学校教育の連携 ～なめらかな接続にむけて～

係長 宮崎 良一

本年度、幼児期と児童期の教育を円滑に接続するためのアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを作成しました。

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムとは

**アプローチカリキュラム**

5歳児教育の後半(1月～3月)における、小学校進学後を意識したカリキュラム。

**スタートカリキュラム**

幼児教育の積み重ねを意識した小学校入学以降前半(4月～6月)のカリキュラム。



幼児期から児童期にかけての教育活動の滑らかな接続を図るには、お互いの子どもたちの発達段階を考慮した活動を展開し、幼児期と児童期のつながりを見通していかなければなりません。接続期を単なる、幼児期から児童期の準備期間や馴らしの期間として捉えるのではなく、子どもの発達や学びの連続性を意識しての学びの基礎力の育成期間として捉えていくことが必要だということです。この接続期は「学びの基礎力の育成期間」とも言えます。本年度作成した接続カリキュラムが、来年度、有効なものであるかどうか子どもの姿を観察しながら検証したいと考えております。